

- 3) 古城齊一ほか3名：サヤヌカグサの除草剤による防除，雑草研究 21-1, 26～30(1976)。
- 4) 桑原義晴：日本イネ科植物生態図譜 第1巻，北陸の植物の会(1975)。
- 5) 森田弘彦・土井康生：新しい水田多年生雑草，エゾノサヤヌカグサについて，北農 50-5, 1～9(1983 a)
- 6) 森田弘彦・土井康生：水田多年生雑草エゾノサヤヌカグサの生態と防除に関する研究 第1報，増殖形態と繁殖器官の形成，雑草研究 28, 別号(1983 b)。
- 7) 森田弘彦：エゾノサヤヌカグサの発芽，奥山春季監修，レポート日本の植物 18, 166(1983 c)。
- 8) 野田健児・茨木和典：除草剤によるサヤヌカグサの防除試験，九州農業研究 28, 47～49(1966)。
- 9) 大井次三郎：改訂増補新版日本植物誌，至文堂(1975)。

昭和57年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡) 関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和57年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は，昭和58年9月5日，植調会館において開催された。その結果の概要は，次のとおりである。

当年度試験に供試された薬剤は，のべ34薬剤(作用性試験16，適用性試験26)で，総試験点

数は131点(除草剤……小麦94・二条大麦16・六条大麦3・裸麦2・いぐさ4・水稻刈跡9，生育調節剤……3)である。

供試薬剤の有効成分および判定結果は，第1表のとおりである。また，実用化可能と判定された除草剤の使用基準は第2表のとおりである。

第1表 昭和57年度冬作関係除草剤・生育調節剤の有効成分および判定結果一覧表

I. 除 草 剤

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および含有率(%)	委託会社	試験の種類	判定	判定理由または内容
(1) 麦 類 A. 小麦	1) B-3015・P	乳	・ベンチオカーブ……50 ・プロメトリン……5	クミアイ化学工業	適用性	実・継	・土壤処理で，寒冷地への地域拡大可能。
	2) BAS-3510	液	・ベンタゾン……40	住友化学工業	作用性	—	・広葉雑草対象生育初期処理で効果高い，適用性試験に移行可能。
	3) CG-119・P	細粒	・メトラクロール……2	日本チバガ	作用性	—	・播種後土壤処理剤

対 象 作 物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率(%)	委託会社	試験の 種 類	判 定	判定理由または内容
(1) 麦 類 A. 小 麦 (つづき)	3) CG-119・P (つづき)		・プロメトリン……………1	イギー			で効果高い、適用 性試験に移行可能。
	4) DBN	粒	・DBN……………1	兼 商	適用性	実・継	・前年通りの基準で 実用化可能。
	5) Dowco 233	液	・3,5,6-トリクロル- 2-ピリジリオキシ酢 酸トリエチルアンモニ ウム……………44	ダウケミカ ル日本	作用性	—	・麦6葉期畦間処理 で広葉雑草に卓効。 禾本科雑草に有効 な剤との体系処理 および全面処理に ついての検討を要 する。
	6) HOK-15①	細粒	・DBN……………1 ・DCMU……………0.5	北興化学工 業	適用性	実・継	・生育初期処理で寒 冷地(畑作)への地 域拡大可能。さら に適用地域の拡大 をはかる。
	7) HOK-811	水溶	・シアン酸ナトリウム ……………80	北興化学工 業	適用性	実・継	・播種直後土壌処理 剤としてCAT水 和剤との混用で実 用化可能。
	8) HSW-802	乳	・メトラクロール……20 ・DNBPA……………40	北 海 三 共	作用性	—	・広葉雑草に効果高 い。適用性試験に 移行可能。
	9) KNW-242	水和	・成分未公開……………50	呉羽化学工 業	作用性 適用性	— 継	・効果・薬害につい てさらに検討。成 分未公開。
	10) KUH-813	細粒	・オルソベンカーブ…8 ・リニュロン……………1.2	クミアイ化 学工業	適用性	実・継	・播種後土壌処理で 寒冷地以西で実用 化可能。さらに効 果確認、適用条件 の拡大をはかる。
	11) MCC	水和	・MCC……………40	日産化学工 業、北興化 学工業	適用性	実・継	・播種後土壌処理で 寒地で実用化可能。 さらに適用条件の 拡大をはかる。
	12) MK-140	フロ アブル	・成分未公開……………60	三菱化成工 業	作用性 適用性	— 継	・除草効果が高く、 薬害は軽微なので さらに継続して検 討。
	13) MK-146	フロ	・成分未公開……………40	三菱化成工	作用性	—	・除草効果は当該供

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および含有率(%)	委託会社	試験の種類	判定	判定理由または内容
(1) 麦類 A. 小麦 (つづき)	13) MK-146 (つづき)	アブル		業			試量では不足、薬量増で再検討。
	14) MK-147	フロアブル	・成分未公開……………40	三菱化成工業	作用性	—	・除草効果は当該供試量では不足、薬量増で再検討。
	15) MT-124	水和	・3-[2-ニトロ-5-(2-クロロ-4-トリフルオルメチルフェノキシ)-フェノキシ]テトラヒドロフラン……………40	三井東圧化学	作用性 適用性	— 継	・効果・薬害についてさらに検討。
	16) MT-127	水和	・成分未公開……………80	三井東圧化学	作用性	—	・処理時期・効果・薬害について再検討。
	17) NC-307	細粒	・CAT……………0.5 ・IPC……………1.1	日産化学工業	適用性	継	・効果・薬害についてさらに検討。
	18) プロメトリン	水和	・プロメトリン……………50	塩野義製薬	適用性	実	・播種後土壌処理で、寒地で実用化可能。
	19) RP(J)-821	水和	・ビフェノックス……………60 ・DCMU……………20	RP(J)821研究会 (事：ローヌプーラン ジャパン)	作用性 適用性	— 継	・効果・薬害についてさらに検討。
	20) SSH-55	乳	・トリフルラリン……………14 ・プロメトリン……………6	塩野義製薬	適用性	実・継	・播種後土壌処理で暖地(水田裏作)で実用化可能、さらに適用地域の拡大をはかる。
	21) トリフルラリン 2.0	粒	・トリフルラリン……………2	塩野義製薬	適用性	実・継	・播種後土壌処理で温暖地で実用化可能、さらに適用地域の拡大をはかる。
	22) トリフルラリン 2.5	粒	・トリフルラリン……………2.5	塩野義製薬	適用性	実・継	・寒冷地南部への地域拡大可能。
	23) トリブニール	水和	・メタベンズチアズロン……………70	日本特殊農薬製造	適用性	実・継	・寒地への地域拡大可能、さらに適用条件の拡大をはかる。
	24) YH-44	乳	・1-(m-トリフロロメチルフェニル)-3-クロロ-4-クロ	八洲化学工業	作用性 適用性	— 継	・効果・薬害についてさらに検討。

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および含有率(%)	委託会社	試験の種類	判定	判定理由または内容
(1) 麦類 A. 小麦 (つづき)	24) YH-44		ロメチル-2-ピロリ ドン……………24				
B. 大麦類	1) HOK-15①	細粒	・DBN……………1 ・DCMU……………0.5	北興化学工業	適用性	実・継	・生育初期処理で温暖地西部(四国)で実用化可能。さらに適用地域の拡大をはかる。
	2) KNW-242	水和	・成分未公開……………50	KNW研究会(事:呉羽化学工業)	作用性 適用性	— 継	・効果・薬害についてさらに検討。
	3) トリフルラ リン	粒	・トリフルラリン…2.0	塩野義製薬	適用性	実・継	・土壌処理で温暖地で実用化可能。さらに適用地域の拡大をはかる。
	4) HOK-15	水和	・DBN……………30 ・DCMU……………10	北興化学工業	適用性	実・継	・前年通りの基準で実用化可能。
	5) NC-307	細粒	・CAT……………0.5 ・IPC……………1.1	日産化学工業	適用性	継	・効果・薬害についてさらに検討。
(2) いぐさ	1) MC-79	粒	・ビフェノックス……7	モーダウン普及会(事:ローヌ・プーラン・ジャパン)	適用性	継	・効果・薬害についてさらに検討。
(3) 水稻刈跡	1) NHS-25	液	・塩素酸ナトリウム…25	三草会(事:保土谷化学工業)	適用性	実・継	・ミズガヤツリ対象で温暖地の早期栽培で実用化可能。さらに適用地域の拡大をはかる。
	2) グリホサート	液	・グリホサート……………41	ラウンドアップ普及会(事:日本モンサント)	作用性 適用性	— 実・継	・温暖地東部の早期栽培への地域拡大ならびに処理適期幅の拡大可能。

Ⅱ. 生育調節剤

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および含有率(%)	委託会社	試験の種類	判定	判定理由または内容
(1) 小麦	1) S-327	水和	・1-(4-クロロフェニル)-4,4-ジメチル-2-(1,2,4-トリアゾール-1-イル)-1	住友化学工業	作用性	—	・効果・薬害についてさらに検討。

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および含有率(%)	委託会社	試験の種類	判定	判定理由または内容
(1) 小麦 (つづき)	1) S-327 (つづき)		ーベンテン-3-オン ……………10				
(2) いぐさ	2) N ⁶ -ベンジルアデニン	液	・N ⁶ -ベンジルアミノプリン……………2	興人	適用性	継	・濃度・希釈量についてさらに検討。

第2表 昭和57年度冬作関係実用化除草剤使用基準

区分	薬剤名	処理法	処理時期	使用量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
小麦	B-3015・P乳	土壌処理	播種後	g/a 75~125 〔但し、温暖地西部以西は50~75〕	砂壤土~ 埴土 〔但し、寒冷地、温暖地西部以西は砂壤土を除く〕	寒冷地以西 〔但し、寒冷地北部は畑作、寒冷地南部以西は水田裏作〕	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。
	DBN 粒	生育初期処理	麦2~3葉期 〔スズメノテッポウ1.5Lまで〕	g/a 500~600	埴土~埴土 〔但し、暖地は埴土のみ〕	寒冷地南部以西 (水田裏作)	1) DBN水和に準ずる。
	HOK-15㊟ 細粒	生育初期処理	麦2~3葉期 〔スズメノテッポウ1.5Lまで〕	g/a 500~600	埴土~埴土	寒冷地 (畑作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。
	HOK-811水溶 +CAT水和 〔現地混用〕	土壌処理	播種直後	g/a 300 + 5 ~ 500 + 5	砂壤土~ 埴土	温暖地西部 (四国)(簡易耕栽培)	
	KUH-813 細粒	土壌処理	播種後	g/a 400~500	砂壤土~ 埴土 〔但し、寒冷地および温暖地西部は砂壤土を除く〕	寒冷地北部 (畑作) 寒冷地南部以西 (水田裏作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。
	MCC 水和	土壌処理	播種後	g/a 100	全土壌	寒地(畑作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。

区 分	薬 剤 名	処理法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
小 麦	プロメトリン 水和	土壌処理	播 種 後	g/a 15～20	全 土 壌	寒地(畑作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。
	SSH-55乳	土壌処理	播 種 後	g/a 75～90	砂壤土～ 埴土	暖 地 (水田裏作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。
	トリフルラリン 粒 2	土壌処理	播 種 後	g/a 500～600	砂壤土～ 埴土	温 暖 地 (水田裏作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。 2) 排水不良田では、効果が劣る場合があるので注意する。
	トリフルラリン 粒 2.5	土壌処理	播 種 後	g/a 400～500	砂壤土～ 埴土	寒冷地北部 (畑 作) 寒冷地南部 以西 (水田裏作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。 2) 排水不良田では、効果が劣る場合があるので注意する。
	トリブニール 水和	土壌処理 生育初期 処理	播 種 後 麦 3 葉期ま で 〔スズメノ テッポウ 2～3 L まで〕	g/a 28.5～ 42.8 〔但し、寒地〕 は30	壤土～埴土	寒地(畑作) 寒冷地以西 (畑作・ 水田裏作)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。
大 麦	HOK-15① 細粒	生育初期 処理	麦 2～3 葉 期 〔スズメノ テッポウ 1.5 L ま で〕	g/a 500～600	砂壤土～ 埴土	温暖地西部 (四 国)	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。 2) 対象：二条大麦、 裸麦。
	トリフルラリン 粒 2	土壌処理	播 種 後	g/a 500～600	壤土～埴土 砂壤土～ 埴土	温暖地東部 温暖地西部	1) 砕土・整地・覆土を丁寧に行なって均一散布に留意する。 2) 排水不良田では、効果が劣る場合があるので注意する。 3) 対象：二条大麦、 裸麦。
	HOK-15 水和	生育初期	麦 2～3 葉	20～30 g/a	壤土～埴土	全 域	1) 砕土・整地・覆

区 分	薬 剤 名	処理法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
大 麦 (つづき)	HOK-15 水和 (つづき)	処理	期 〔スズメノ テッポウ 1.5 L ま で〕	〔但し、暖地〕 は20		〔但し、四 国を除く。 寒地～温 暖地東部 (畑作) 温暖地以 西(水田 裏作)〕	土を丁寧に行なっ て均一散布に留意 する。 2) 対象：二条大麦、 六条大麦。
水稲刈跡	MHS-25 液	茎葉処理	水稲刈取後 10～15日 (再生後)か ら塊茎形成 前まで	l/a <u>2.0～2.5</u> (原液散布)	全 土 壤	温暖地の早 期栽培	1) 茎葉によく付着 するように散布す る。 2) 対象雑草：ミズ ガヤツリ。
	グリホサート液	茎葉処理	水稲刈取後 10～15日 (再生後)か ら塊茎形成 盛期まで(10 月中旬頃)	ml/a 50～100 〔100～50倍 液を5 l/a 散布〕	全 土 壤	温暖地東部 ・暖地の早 期栽培	1) 茎葉によく付着 するように散布す る。 2) 対象雑草：ミズ ガヤツリ。
			水稲刈取後 セリ生育期	33～50 〔150～100 倍液を5 l/a 散布〕		温 暖 地	1) 茎葉によく付着 するように散布す る。 2) 対象雑草：セリ

注) ① アンダーライン(実線)は、本年度拡大または追加された部分である。なお、薬剤名のアンダーラインは、本年度はじめて使用基準の作成されたものである。

② アンダーライン(点線)は、その一部が拡大されたものである。

編 集 後 記

植 調 協 会 だ よ り

深山一面紅葉し、秋も終りを告げると、雑草の種子は地に下りて休眠…来春に夢を託して。

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・昭和58年度桑園関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和58年12月8日(木) 10～17時

場所：植調会館3階会議室

- ・昭和58年度水稲畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績中央検討会

日時：昭和58年12月12日(月)～16日(金)

場所：協和銀行秋葉原支店4階会議室・植調会館3階会議室

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03)832-4188(代)

昭和58年11月発行

植調第17巻第8号

¥300(送料170)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人

発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)833-1821番(代)